広島大学図書館蔵『百人一首聞書』享禄三年写本　翻刻（三）

広島大学日本語史研究会

ここに翻刻する『百人一首聞書』は、広島大学中央図書館貴重書室に蔵される、享禄三年（一五三〇）二月の写本である。前々号・前号「広島大学図書館蔵『百人一首聞書』享禄三年写本　翻刻（一）（二）」に続くものであり、この（三）をもって完結する。翻刻のご許可を頂いた広島大学図書館に対し、心中より御礼申しあげる。前々号に簡単な資料解説をしている。御参照願いたい。

（以上、佐々木　勇　記）

〈凡例〉

一、本翻刻は、広島大学図書館蔵『百人一首聞書』（大国 2545 ワカ 74）の原本に基づき、その全体を、現行の字体に改めたものである。仮名遣いは、原本のままとした。

一、行取りも原本のままとした。ただし、紙背注は追い込み式とした。

一、改行を／で示した。割書は〈　〉に入れ、割書内の改行も／で示した。

一、紙背には、歌作者と歌への注が有る。それらの注は、各歌の後に［裏書］として、一字分下げて挿入した。この［裏書］には、朱の合点二種が存する。＼は歌作者への注、〻は歌に対する注に冠されている。〻注は、改行の後に記した。

一、原本に加点された朱声点は、（平）・（上）・（平濁）・（上濁）などと認定したものを、当該字の直下に記した。

一、平仮名の振り仮名は、時代の降る加点である。

一、翻刻にあたり、検索の便のため、百人一首の歌番号と本書注の行数を付した。また、（第〇紙）として紙数を、表面の当該箇所に挿入した。

一、その他、必要と思われる注を、［　］に入れて当該箇所に記した。

一、本翻刻は、坂水貴司・申智娟・植村志保・楢崎寛之・東影あさひ・堀場菜月・篠原涼・糸山由樹・西浦瑞姫・板谷智美・佐々木勇で作成した。

一、本文入力作業は坂水・申・本間啓朗が行ない、佐々木が確認・訂正した。

〈翻刻〉

（第二十紙）

金葉
71 夕されは門田のいなは音信て蘆の丸屋に秋風そふく
秋部　大納言經信

［裏書］／中納言道方男　＼母源國盛女
〈師賢朝臣の梅津の山里にまかりて人こ歌よみけるに田家／の秋風といへることをよめる
71-1 此歌ハ 田家秋風ニテヨメルナリ 心ハ 夕ノ秋風門田ノ稲
71-2 葉ヲ吹靡テ 蘆屋ノ中ニ吹入ルヽトナリ丸屋
71-3 トハ蘆ヲ集テ丸ク巻テ ソレヲ柱ナトニシタル躰
71-4 ナリ

金葉
72 音にきくた(上)か(平)し(平)の濱のあ(平)た(平濁)浪はか(上)け(平)し(平濁)
や(平)袖のぬれもこそすれ
戀下　祐子内親王家紀伊

［裏書］／源頼國女　＼或散位平經方女　＼後冷泉院御時／＼高倉一宮トハ
此御事也
〈堀川院御時艶書合につかうまつれる　中納言俊忠　人しれぬ思ひ
ありそのうら風に浪のよる〳〵いはまほしけれ　かへし　一宮紀伊
をとにきくたかしのうらの――
72-1 此歌ハ 堀河院ノ御時艶書合ニ中納言俊忠ノモト
72-2 ヨリ 人しれぬ思ひありそのうら風に浪のよるこそいは
72-3 まほし けれ ト読テ カケシ時ノ返哥ナリ今ノ歌ノ心
72-4 音ニキク タカシトハ 聞及シアタ名ノ高キ人ナリト
（第二十一紙）
72-5 云 心ナリ サヤウノ人ニハ契リヲハカケシヤ心盡シ
72-6 ニ袖ノミヌレン程ニト云歌ナリ此哥アタ名ノ高［ママ］
72-7 キト イハストモ 只アタナル人トカクレナク聞及シト云
72-8 上句ニモ 可レ成 たかしの濱ハ和泉ナリ 俊忠哥ノ心人
72-9 シレヌ思ノアル程ニ浪ノヨル〳〵忍ヒテイハマホシキト
72-10 云心ナリ

後拾遺
73 高砂の尾上のさくらさきにけり外山のかすみたゝすもあらなん
春部　権中納言匡房

［裏書］／散位從四位下成衡男　＼母橘孝親女　＼左大弁［臣］を見消符にて訂正］
正四位下
〈内おほいまうちきみの家にて人こさけらたうへて歌よみ侍けるに／
遙に山櫻を望といふ心をよめる
73-1 高砂ノ尾上トハ 山ノ惣名ナリ 砂 積 成レ山ト云心
73-2 ナリ 尾上トハ高キ所ヲ云ソコニサケル櫻ナリ［ヲ］重書か］

73-3 外山トハ尾上ノコナタニアル山ナリ此外山霞タテハ

73-4 奥ナル尾上ノ花ハミエヌヲカク云ナリ高砂ノ尾

73-5 上播磨ノ名所ニモアレトモ爰ニテハ只山ノ名ナリ

源俊頼朝臣

千載

74 うかりける人をはつせの山おろしよはけしかれとはいのらぬものを

戀二

[裏書]／經信男　／母員高女　貞歟可尋之／從四位上前木工頭

〈〉権中納言俊忠家に戀の十首の歌よみ侍ける時いのれとも不／逢戀といへる心をよめる

74-1 此うかりける ト云ニ年久シク ツレナキ程ノ知ルヽナリ

74-2 今ハトテ初瀬ニ詣テヽ祈レトモ山風ノハケシキ如ク

74-3 人ノ心ノ 我ニナヒカヌヨト云ナリ此第五ノ句ハツラカ

74-4 レト祈ルヤウニ 弥人ノ心ノアラキノミナルト云ナリ

千載

藤原基俊

75 ちきりをきしさせもか露を命にてあはれことしの秋もいぬめり

戀〔マヽ〕上

[裏書]／大宮右大臣俊家男　／母爲弘女

〈〉僧都光覚維摩會の講師の請を申ける時たひ〳〵もれ／にけれは法性寺入道前太政大臣にうらみ申けるをしめち／か原と侍けれとも又そのとしももれにけれはよみてつかは／しける

75-1 此歌コトカキニ 僧都光覚維摩會講師の請を

75-2 申けるを度〻 もれに けれは 法性寺入道前大政大

75-3 臣にうらみ申けるをしめちかはらのと 侍 けれとも又その

75-4 としももれにけれはよみてつかはしけるトアリ 歌ノ心

75-5 契ヲキシトハコトカキニしめちか原のトアル 観音ノ御

75-6 歌ノ詞ヲトリテヲケルナリ 猶タノメト云心ヲ云五文

75-7 字ナリさせもか露ハカノ御哥ニさしも草トアル 其

75-8 事ナリ 命にてトハたのみにてト云心ナリ 下句あはれ

75-9 トハサテモナト云 聊歎ク詞ナリ今年ノ秋モハヤ

（第二十二紙）

75-10 暮ヌルヨト述懐ノ心ノアル歌ナリ僧都光覚ハ基俊

75-11 ノ子ナリ

詞花

76 わたの原漕出てみれは久堅の雲井にまよふ沖津しらなみ

雜下

法性寺入道前關白太政大臣

[裏書]／忠通　／知足院入道忠實一男　／母右大臣顯房女／　／法名圓観

〈〉新院位におはしまししし時海上遠望といふことをよませ／給ひけるによめる

76-1 わたの原トハ海ノ惣名ナリ漕出テミレハトハ舟出シテ
76-2 ミル由ナリ 海上遠望ヲ詠ル歌ナレハ遥ナル沖ノ白
76-3 浪ハ雲井ヲ浸ス許ニ見ト云由也

崇徳院御製

詞花
77 瀬をはやみ岩にせかるゝ瀧川のわれても末にあはむとそ思ふ
戀上

［裏書］／鳥羽院第一御子／母待賢門院璋子／大納言藤原公實女／御諱顯仁／七十五代／御在位十八年／号小六条院／又号讃岐院／保元ゝ年七月廿三日 配讃岐國／長寛二年八月廿六日 崩四十八／詞花集ニハ 新院御製トアリ

〈題しらす

77-1 瀬ヲハヤミハ水ノ急ナル所ナリ岩ニセカレテ二ニナル
77-2 所ノ能ミユレハ 譬ヘ アソハス也心ナラヌ障リニテ
77-3 一度分ルトモ末ハ 必逢ミントテ云也 ワレテモトハワリ
77-4 ナクト云詞ナカラ破ノ字ノ心ニ通ナリ わるゝ

源 兼昌

金葉
78 あはち嶋かよふ千鳥のなくこゑにいく夜ねさめをすまの關守
冬部

［裏書］／宇多源氏／左大臣雅信公五代孫右少将師良朝臣歟／美乃介俊輔／朝臣二男／金葉以下作者

〈關路千鳥といへる事を

78-1 淡路嶋ヨリ戸渡ル千鳥ノ同シ時〈ニ鳴声ヲ
78-2 聞 テイク夜カ寝覚ヲシツラント關守ヲ察スル
78-3 由ナリ すまハ攝州ナリ つのくに

左京大夫顯輔

新古
79 秋風にたなひく雲のたえまよりもれ出る月の影のさやけさ
秋上

［裏書］／修理大夫顯季卿三男

〈崇徳院に百首歌奉りけるに

79-1 秋風ニタナヒク雲トハ村雨ナトノ後雲ノたえ〈ナル
79-2 ヒマヨリモレ出ル月ハ殊ニ影ノサヤケキモノナリ其躰
79-3 ヲ讀ルナリ

待賢門院堀川

千載
80 なかゝらむ心もしらすくろかみの亂れて今朝は物をこそおもへ
戀三

［裏書］／神祇伯顯仲女／崇徳院國母／待賢門院 白河院御猶子／公實卿女

〈百首哥奉りける時戀の心をよめる

80-1 歌ノ心行末ノ契ナカ、ルヘキヲモ不知今朝ハ先イヒシ
80-2 詞ヲ タノミツ、心ノ中ニ思ひ乱ルト云 此思乱ルトハ過

〈第二十三紙〉

80－3　シ夜ノ難レ忘事　又行末ノ事ナト取合テ思ミタルヽ由

80－4　ナリ

千載

81時鳥鳴つるかたをなかむれはたゝ有明の月そのこれる

夏部

［裏書］／実定　右大臣公能男　／母中納言俊忠女

〈〉暁聞郭公といへる心をよみ侍ける

81－1　此比待シ時鳥ノ一声鳴テ過ヌレハ立出テ其方ヲ

81－2　見ルニ跡方モナクテ　只有明ノミノホノカニノコレルト

81－3　云心ナリ

千載

82思ひ侘さても命は有物をうきにたへぬはなみたなりけり

戀三

道因法師

［裏書］／清澄男　／藤原敦輔孫　／俗名敦頼

〈〉題しらす

82－1　カク思ヒ侘テモサスカ命ハ有物ヲウキニ堪忍セヌ

82－2　ハ只泪ナリト云ナリ　さてもハ　サアリテモナリ

千載

83世中よ道こそなけれ思ひ入山のおくにも鹿そなくなる

雑中

皇太后宮大夫俊成

［裏書］／權中納言俊忠四男　／母伊與守藤敦家女　／或云顯隆卿女云〈〉／

／本名顯廣　安元二　九　廿八　依病出家法名釋阿六十三／元久／

元　十一　卅　薨　九十一

〈〉述懐百首哥よみ侍ける時鹿のうたとてよめる

83－1　上二句ノ心世ニ久シク有シカトモ　ツヰニ無道ニテ過シ心

83－2　ナリ　カク云テ今ハヽヤ山ノ奥ノ馮ハカリソト思ヘハ亦

83－3　おく山ニハ鹿ノ鳴ナル事ノアル故ニソレモ叶マシキト云

83－4　心ナリ　此下ノ句ノ心ハ猿丸大夫カおく山に紅葉ふみ分

83－5　なくしかのこゑきく時そ秋はかなしきト讀ル其心ニ成カ

83－6　ハリテ思ヘハ山ノ奥ニモ　スマルマシキソト云所カ弥

83－7　感ヲ添タル歌ナリ

新古

84なからへは又此比やしのはれんうしとみし世そいまは戀しき

雑下

藤原清輔朝臣

［裏書］／顯輔男

〈〉題しらす

84－1　我一瞬ノ中ニ見来ルニ今日［今］字某字擦消の上］ハ昨日［昨］字某字

擦消の上］ヲ忍フ世ナレハ

84－2　カク　ウキ今日ヲモ明日［某字擦消の上］は者亦忍ヒコソセメト云心ナリ

千載
85 夜もすから物思ふ比は明やらぬ閨のひまさへつれなかりけり
戀二
俊惠法師

［裏書］／俊頼子
〈戀哥ととよめる〉
85−1 これは終夜人ヲ待テ物思ヒアカス時ノ躰ナリ
85−2 イカナリトモ夜ハ明ヌヘシト隙ノシラムヲ見レトモ
（第二十四紙）
85−3 ソレサヘ猶クラクテ イツ明ヌヘシトモナケレハ閨ノ
85−4 隙サヘトコヌ人ヲカケテカコツヨシ也

千載
86 なけゝとて月やは物をおもはするかこちかほなる我なみたかな
戀五
西行法師

［裏書］／散位泰清子　／俗名則清　／千載集圓位法師トアリ
〈月前戀といへる心をよめる〉
86−1 此歌ナケゝトテト云ト物ヲおもはするト云トハ同シ
86−2 心ナリ是ヲ能見ルニ なけゝとて月やはと云言葉ハ
86−3 大江千里カ月みれは千〻に物こそかなしけれ我身ひと
86−4 つの秋にはあらねと ト云此歌ノ心ニテ 今ノ哥サヤウニ
86−5 千〻ニ物ヲおもへとてやは月ノミユヘキ 我思ひノアル故
86−6 ニコソ月モカク カナシクミユレサレハ かこち顔ナル涙ニ
86−7 テアルソト云ナリ なけゝとてハ我心物をおもはする
86−8 トハ本歌ノ心ナリ

新古
87 むらさめの露もまたひぬ槇の葉に霧たちのほる秋の夕くれ
秋下
寂蓮法師

［裏書］／阿闍梨俊海子　／俗名定長　／俊成卿甥也　則為子
〈五十首哥奉りし時〉
87−1 此哥村雨晴テ其露ノ槇ノ葉白ク殘ルホトニヤカテ
87−2 夕霧ノ木ノ本ヨリ立上ル躰ナリ山中氣色遮
87−3 眼者也

千載
88 難波江の蘆のかりねの一夜ゆへ身をつくしてや戀わたるへき
戀三
皇嘉門院別當

［裏書］／○［小圏点のみあり］
〈攝政右大臣の時の家の哥合に旅宿にあふ戀といへる心をよ／める〉
88−1 コレハ旅宿逢戀ノ歌ナリ カリネノアタノ枕ユヘワカ
88−2 身ヲツクシハテゝ 戀ワタルヘキニヤ ハカナキ思哉ト
88−3 云心ナリ みをつくしてやトハ難波ノ澁盡ニ寄タリ

88－4　此歌ノコトカキニ　攝政右大臣の時の[補入]家の　哥合に旅宿
88－5　逢戀トイヘル心をよめる　トアリ

式子内親王

新古
89　玉の緒よ絶なはたえねなからへはしのふることのよはりもそする
戀一

[裏書]／後白河院第三皇女　／高倉院御姉　／後鳥羽院伯母
百首哥中に忍戀を
89－1　玉ノ緒ハ命ナリ　絶なはたえねとは戀故とても絶なは
89－2　よしいま絶ネト云心ナカラヘユカハ忍ヒヨハリテ名モコソ
(第二十五紙)
89－3　タヽメト云心也

殷冨門院大輔

千載
90　みせはやなを(平)し(平)ま(平)の海士の袖たにもぬ(上)れ(上)に(上)
戀四
は(平濁)ぬ(上)れ(上)し(上)色はかはらす

[裏書]／○[小圏点のみあり]
哥めしける時戀哥とてよめる
90－1　ミセハヤナトハ思フ人ニ我袖ヲミセハヤト云也をしまの
90－2　海士衣ハ朝夕なみ馴テ　ヌレコソヌルレ我ハ今紅涙
90－3　ニ袖ノ色ノカハレルソト云ナリ　ぬれにそぬれしハ重
90－4　詞ナリ

新古
91　蛬なくや霜よのさむしろに衣かたしきひとりかもねむ
秋下

後京極攝政前太政大臣

[裏書]／良經　／後法性寺關白兼實二男　／母從二位季行女
百首歌奉りし時
91－1　此歌毎句古歌ノツヽキニテ我物ト見タル所ナケレトモ
91－2　蛬ナクヨノ霜ニ衣かたしきて獨リネン事ノ悲シサヨ
91－3　ト思ふニ心ノ感深キ哥ナリ　詞又ツヽケカラニテ　一首ノ
91－4　前後面白クキコユル也心ヲ付テ　可レ思

二条院讃岐

千載
92　我袖は塩干にみえぬおきの石の人こそしらねかはくまもなし
戀二

[裏書]／頼政女／　／二条院者　後白河院御子
寄石戀といへる心をよめる
92－1　我袖ハト云テ二三ノ句ハ譬ナリ　下句人シレス袖
92－2　ノヌレヤム隙モナキソト云ヲ奥ノ石　ニ寄テ云ナリ
92－3　猶在レ口傳

鎌倉右大臣

新勅
93　世中はつねにもかもな渚こく海士のを舟のつなて(平)かなしも
羈旅

[裏書]／實朝　／征夷大将軍頼朝二男

93-1　題しらす
上ニ句ノ心世中ハ常ニアリタキ物カナト願フ由

93-2　ナリ旧里ヲ去テ遥ナル渚ノ小舟ニ乗テ綱手

93-3　引行トキ更ニ物カナシケレハカク云ナリ海士ノ小舟ト

93-4　ハ小船ニ乗テ行躰ナリ但又此渚ニイタリテ見

93-5　レハ海士小舟ノ物カナシケニ綱手ヒクヲ感シテヨメル

93-6　心モアルヘシ旅ノ哥ナレハ其心ヲモチテ可レ見

参議雅經

新古
(第二十六紙)
94　みよしの丶山の秋風さよふけて故郷さむくころもうつなり
秋下

[裏書]／刑部卿頼經男

94-1　擣衣のこゝろを
此歌古今ニみよしの丶山のしら雪積るらし故郷さ

94-2　むくなりまさる也トアリソレヲ本哥ナカラ一首ノツヽキ

94-3　遥ニ勝リテ覚ユレハ撰載ラレタル也句ノ置所ナト

94-4　同シクトモ一首ノシタテニ可レ寄ナリ今ノ歌ノ心

94-5　よしの山の秋風夜フクルマヽニ故郷サムク成マサリテ

94-6　衣ウツ音モシケクナリユク由也故郷トハヨシ野昔

94-7　皇居ニテアリシカハ云ナリ

千載
95　お(上)ほ(上)け(平)な(上)く(平)うき世の民におほふかな我たつ杣に
すみそめのそて

雑中

[裏書]／法性寺關白忠通息　／後京極攝政伯父　／久壽二〈乙／亥〉　四
十五日誕生／母北政所女房加賀從五位上仲光女　第六十二代座主
／／諱道快　／養和元　十一　六　改名慈圓廿七歳時也／／嘉禄元年
九月廿五日入滅七十一　／嘉禎三　三　八　諡号滅後十三年也

95-1　題しらす
おほけなくトハヲロカニモナト云詞ナリうき世ノ民トハ

95-2　世界ノ衆生ノ事也我立杣トハ傳教大師ノ阿耨〔ママ〕

95-3　多羅三藐三菩提の仏たち我立杣に冥加あら

95-4　せ給へトアル御詞ヨリ台嶺ヲ云ナリ此山ニ住シメ
ひゑのやまのことなり

95-5　給ヒ天台ノ圓教ヲ一切衆生ニおよほし給ふト云ヲ

95-6　袖ヲヽホウニヨソヘラレタルナリ袖ヲおほふト云ハ後

95-7　撰ニ大空におほふはかりの袖もかな春さく花を風〔ママ〕に

95-8　まかせしトアリ

新勅
96花さそふあらしの庭の雪ならてふりゆく物はわか身なりけり　入道前太政大臣

雑一
［裏書］／西園寺公經實宗男
〜落花をよみ侍ける
96-1　此歌あらしのさそふ庭の花ハ雪ト成テモ猶見所ノ
96-2　アルナリ　サヤウニハナクテふりゆく我身のはてハカヒナ
96-3　キ物ナリト云述懐ノ歌ナリ

新勅
97こぬ人をまつほの浦の夕な(上)き(上濁)にやくやも(上)し(上)ほ(平)の(平)身もこかれつゝ　権中納言定家

戀三
［裏書］／俊成二男　／母前若狭守從五位下藤親忠女　／正二位民部卿本名／光季　／又改季光　／後定家　／貞永元　十　十一出家法名明静　／仁治二年／八月廿日薨　八十三／平治元　誕生
〜建保六年内裏哥合戀哥
97-1　一首ノ心コヌ人ヲ待夕ハ我身モ更ニコカレ侘ヌト云
97-2　ヲタナキノうらの藻塩ニヨソヘテ　ヨメル歌ナリまつほ
97-3　の浦トハ　万葉長歌ニ　あはちしままつほの浦のあさなきに

（第二十七紙）

97-4　わかめかりつゝ夕なきに藻しほやきつゝ　トアリ
97-5　其詞ニテクミ立タレタル也

新勅
98風そよく楢の(上)を(平)河の夕暮は御祓そ夏のしるしなりける　從二位家隆

夏部
［裏書］／前中納言光隆四男
〜寛喜元年女御入内屏風に
98-1　此歌ならのを河ニ御祓スト云ハ　万葉ニみそきする
98-2　ならのを河の川風にいのりそわたるしたにたえしと
98-3　トアリ　これを本歌なから風そよく楢トハ楢の葉柏
98-4　ニ風戦キテ秋ノ景氣ニ成ハテヌト云由ナリ殊
98-5　ニ此川ノ涼シサ只秋ノ比ナリサレハ夏ト思ふ事のナキニ
98-6　御祓スルハカリソサテハ夏ノシルシニヤト思フト云歌
98-7　ナリ

續後撰
99人もおし人もうらめしあちきなく世を思ふゆへに物おもふ身は　後鳥羽院御製

雑上
［裏書］／高倉院第三御子　／御母　七条院殖子／　／御諱　尊成　／八十二代　／御在位十五年　／御追号顯徳院

〈題しらす

99-1 人もおしトハ一切ノ下民ニ至ルマテあはれみ思食ヨシ

99-2 ナリ人モウラメシトハ乱逆ノ臣アリテ宸襟ヲ御たいりの事なり

99-3 悩ス故ノ御詞ナリあちきなくトハ無道ト書道ナ

99-4 キ時ハ聖人ハ口ノ気味モナキナト云ソレニ寄タル御

99-5 詞ナリ 下句一天ノ主ニテ マシマス故ニ御物思ヒ

99-6 モ人ニマサリテ深キ由ナリ 賞罰ノ御 志ノ難

99-7 レ有者哉

續後撰 順徳院御製

100 百敷やふるき軒はのしのふにも猶あまりあるむかしなりけり

雑下

［裏書］／後鳥羽院第二皇子 ／御母 脩明門院／ ／御諱 守成 ／八十四代 ／御在位十一年 ／号佐渡院／ ／承久三年七月廿一日配于佐渡國 ／仁治三 九 十二 崩

〈題不知

100-1 百敷トハ 禁中ヲ云 フルキ軒ハトハ昔ニカハリモテ

100-2 行 朝廷ヲ思食故ノ御詞也しのふにも猶あまりあ

100-3 るトハ忍ヒ餘ルマテ 聖代ノ昔ヲ思食出ルソト云

100-4 御歌ナリ 此三四ノ句ツヽキ後撰ニあさちふのをのゝし

100-5 のはらしのふれとあまりて［破損］なとか人のこひしきト云

（第二十八紙）

100-6 句法ナリ 今ノ御歌ノフルキト云字 高キ軒はの

100-7 ト講尺ノ時ハ可レ申ト云 故實也但これも所による

100-8 へし 只うちにては御歌のことく讀なり

［奥書］

此百首御聞書令拝見畢

申上之旨大底無相違者歟

享禄三年二月四日

法印經厚（花押）

［完］